

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：労働費 項：職業訓練費 目：職業訓練校費

事業名 新 職業能力開発施設整備費（DX）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

商工労働部労働雇用課職業能力開発係 電話番号：058-272-1111（内 3134）

E-mail： c11367@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,759 千円（前年度予算額：0 千円）

＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	12,759	6,379	0	0	0	0	0	5,600	780
決定額	12,122	6,061	0	0	0	0	0	5,400	661

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

国際たくみアカデミーの視聴覚室及びたくみホールに設置されているワイヤレスマイク等の音響設備は、平成17年の開校当初からの設備であり、15年以上経過している。当該音響設備は旧スプリアス規格のため、電波法改正により使用できなくなる。また旧式の設備のため、訓練で実際に使うためには、必要機材の運搬・接続のために時間がかかり、指導員の負担となっている。

視聴覚室の映像設備も開校当初から設置されており、老朽化により十分な照度を得られず、液晶画面に横線が入るなどのトラブルが常時発生している。

当校は令和2年度より、職業訓練のICT化に対応するため、ICT機器や設備を導入しており、主要拠点は視聴覚室・たくみホールである。オープンキャンパスなどのリモート行事や、自宅とをつないだオンライン訓練、サテライト会場をつなぐハイブリッド型訓練などを実施している。ICTを活用した訓練・行事を行う上では、視覚・聴覚効果は利用者の満足度に直結する。

機器のトラブルがあれば訓練の効果低下や時間浪費、予定している内容ができなくなる可能性がある。

設備のバージョンアップにより、ICT訓練等の根幹となる視覚・聴覚効果を高め、Bluetooth機能の導入により、準備時間の短縮や訓練の質向上など、デジタルを使った業務改革（DX）を推進し、利用者の満足度を高めたい。

(2) 事業内容

- 短大校視聴覚室及びたくみホールの設備をICT化
 - ・短大校視聴覚室及びたくみホール映像音響設備更新工事を行う。
- 令和4年度 事業費 12,759千円

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・施設改修（工事費用のみ） 1/2（対象面積に対する補助）
- 厚生労働省：職業能力開発校設備整備等補助金 活用

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	12,759	更新工事費用
合計	12,759	

決定額の考え方

過去の類似事例の落札率を勘案し、所要額を計上します

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 職業能力開発促進法に基づき設置・運営している県立職業能力開発訓練施設において、ICTを活用した授業、リモート行事等に活用する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

職業訓練の実施に必要なIT機器について整備するものであり、数値的な指標を設けることは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
令和4年度	指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%
令和5年度	令和6年度当初予算にて追加
令和6年度	指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
<p>(評価)</p> <p>3</p>	<p>・ 厚生労働省の第 11 次職業能力開発計画では、公的職業訓練における IT 活用スキル・IT リテラシー等を活用した訓練やオンライン訓練を推進している。</p> <p>・ 今後は学卒者訓練を中心に、プログラミング教育やオンライン授業を経験した世代の入学が増加するため、オンライン訓練をはじめとする ICT 訓練に対応できる機器や設備が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
<p>(評価)</p>	
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
<p>(評価)</p>	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	